

日時：2017年8月26日(土)

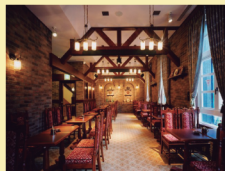
正午～14:00 (11:30 開場)

場所：神戸にしむら珈琲店 中山手本店3階

<http://www.kobe-nishimura.jp/shop/index.html>

神戸市中央区中山手通 1-26-3

参加料：1,000 円 ※店内での飲食代は各自でご負担ください。



〈趣旨〉

今回、登場する3人の著者はいずれも「街と差し向かいで、いい店のことを読者に伝えてきた」編集者であり、ライターです。「グルメライター」といった職業がまだなかった1989年に『ミーツ・リージョナル』が創刊し、著者たちは本格的に店を書き始めます。店や原稿のタッチはそれぞれ違いますが、口を揃えて断言するのは「取材で書けるようなことは知れていて、それだけで店の魅力は絶対に伝えられない」ということ。

では「取材」ではない形でどうやって店の魅力を読者のあなたに「ライブ」に伝えてきたのか。いわゆる「情報誌」や「グルメサイト」の、作り手の顔が見えない、「カタログ化、点数化、ランキング化」がいかに街や店の魅力を損なっているかについても、突っ込んだ話をしたいと思います。

30年にわたって読者に「消費軸でない街と店の話」を伝え続けてきた3人の「(活字にできないことも含めて) とっておきの話」を皆さんと分かち合えれば。神戸を代表する珈琲店の、おいしいコーヒーを飲みながらお楽しみください。

●トーク内容

『いっとかなあかん神戸』『大阪(＋神戸&京都)ソースダイバー』の著者として／1980年代から、『ミーツ』ほかで「街場の店」を書いてきたこと／グルメライターの登場と「こなもん」的物言い／ネットとモバイルによる「街と店」をめぐるメディアの変遷／街場の店は「点数化」「情報化」できない？

〈申込方法〉 メールアドレス：otoiawase@140b.jp
あるいは、Fax. 06-4799-1341

「神戸トークイベント参加希望」という件名で、参加希望者全員の名前と、代表者の住所・氏名・電話番号(fax.の方はfax.番号も)を明記してお申し込みください。一人あたり4名様まで受付可能です。先着40名。

※当選の方にはメールまたはfax.で通知します。

『大阪(＋神戸&京都)ソースダイバー』著者

『いっとかなあかん神戸』著者

堀埜浩二

曾束政昭

江 弘毅

「下町のお好み屋や串カツ屋」はまずもって稚拙な「グルメ情報」としてコピペされ「こんなディープなところに…」といった陳腐化した表現に絡めとられ、消費のタームに回収される。

ローカルルールへの敬意」に満ちた文章が、その土地ならではの「お好み焼や串カツ」の存在を広く世間に知らしめることになる。

消費にアクセスすることだけを目的とした、「街的な反知性主義」の読者をせっせとつくってきた情報誌ライター、グルメライターの罪は重い。

発刊記念
トークイベント

「われわれは長い間、街場の店をどう書いていたか」



140B刊 1,300円＋税



プリコールド・パブリッシング刊
1,500円＋税

会場で販売します。
お楽しみに！